

(2022年10月号掲載)

群馬県内の化学工業・プラスチック製品製造業の動向調査

群馬経済研究所 主任研究員 半田浩己

調査のポイント

県内において、「化学工業」と「プラスチック製品製造業」は、製造業の中で生産額や従業員数で上位を占める重要な業界である。そこで、県内におけるこれらの業界の位置づけや特徴について、統計データやアンケート調査結果により分析を行った。

要約

- 県内の2019年の製造品出荷額等をみると、化学工業は7749億円、プラスチック製品製造業は5500億円と製造業の中でそれぞれ3、4位となっている。2009年以降の推移をみると、事業所数は横ばいながら、従業者数と製造品出荷額等は増加基調で推移している。
- 県内の同業界へのアンケートでは、経営への影響度が高い環境変化は「エネルギー価格の高騰」、「原材料価格の高騰」や「原材料不足」などで、中でも「エネルギー価格の高騰」は、93.1%の企業に影響が及んでいる。
- 一方で、「エネルギー価格の高騰」や「原材料価格の高騰」への対応は、企業により様々であるが、製品価格へ転嫁出来ている企業はそれぞれ23.8%、53.2%となっている。
- また、「脱炭素への取り組み」の必要性を感じている企業は77.5%であった。地球温暖化への対応は喫緊の課題であり、意識の高さが伺われる結果となった。